

第7回チームネクスト

7月18日、19日の2日間、第7回チームネクストセミナー合宿が東京・中野の帝京平成大学の618号室で行われた。チームネクストの会員だけでなく、今回は地方の自治体関係者や一般マスコミなどオブザーバを含め、60名を超える参加があった。



今回の講演者は、昨年10月まで加賀市の市長で会った寺前秀一帝京平成大学観光経営学科長であり、初日は3時間半に渡る「グーグル戦略から見るとこれからの人流・観光」というテーマで、力の籠った講演、さらに二日目は、寺前先生をコーディネーター役としてチームネクストの4人の世話人のパネルディスカッションが行われた。世話人はどなたもチームネクストのこれまでのセミナー合宿の講演者で、天野つばめ自動車社長、兼元キャビック社長、岩村コミュニティータクシー会長、加藤千代田タクシー社長であり、会場からも活発な質問や意見表明があった。詳しくはタクシージャパン本号の掲載記事や東京交通新聞の7月28日の一面、二面に掲載されている記事及びチームネクストのホームページを参照して頂けると有り難い。

人流・観光研究所発足

ところで今回のチームネクストは寺前先生の講演を

清野吉光氏のコラム 第68回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

人流・観光研究所
発足の意味

通じ、この4月に発足した「人流・観光研究所」のお披露目の機会を兼ねていた。「人流・観光研究所」はシステムオリジンの中に作られた研究所で、システムオリジンの顧問でもある寺前先生が所長を勤められている。というより、研究所を担える人材は今のところオリジンにはいないので、先生一人の研究所というのが実態である。しかしながら、この「人流・観光研究所」がオリジンに設置された事の深い縁と意味を筆者は、あらためて、強い感慨を持って感じている。

すべては
「モバイル交通革命」から！

2001年5月に東京交通新聞社から書籍「モバイル交通革命」が出版され、それを讀んだ筆者が「総合生活移動産業」というコンセプトに魅了され、2003年のオリジン創立20周年の折、「未来への志」として、この「総合生活移動産業」を念頭に、「新しいタクシーのビジネスモデル創造のお

役に立ちたい」と(勝手に)宣言した。そして2004年10月に六本木ヒルズでのタクシー問題懇談会主催の「タクシーの近未来を考える」シンポジウムを特別協賛し、当時国土交通省を退官し、日本観光協会を理事長であった寺前先生にシンポジウムの基調講演を強引にお願いした。

さらに2006年から2007年にかけて、山内弘隆一橋大学教授を座長にお願いし、「総合生活移動産業創造に向けて」というテーマで10回に渡るオリジンタクシーゼミナールを開催し、2008年3月に、そのゼミナールの内容を収録した「全録オリジンタクシーゼミナール」を出版した。このゼミナールでの「総合生活移動産業」のコンセプトは、どちらかというと国土交通省の「タクシーサービスの将来ビジョン小委員会」が答申した内容に即したものであり、寺前先生が提唱した内容とは言葉は同じでも、随分温和なものであった。2008年11月25日付のタクシージャパンで筆者は

「新版『モバイル交通革命』を待望」なるコラムを書き、モバイル交通革命発刊から7年経過した時点で、一部のタクシ事業者の希望もあり、寺前先生に『モバイル交通革命』の更新・再刊をお願いした。そしてそれに応えるものとして2009年6月にシステムオリジナルから寺前先生の原著「ユビキタス時代の人流」が出版され、「人流」という言葉が登場した。さらに2011年9月25日付のタクシージャパンで筆者は「再考『モバイル交通革命』というコラムを書き、スマホ時代の到来の中で、ますます総合生活移動産業創造の基盤である「個の情報化」、「地理空間情報活用」、「特定多数」から「特定多数」、「特定多数」から「特定多数」顧客」を実現するIT技術と移動通信インフラが整って来ている事を吐露した。そして寺前先生が2009年に郷里石川県加賀市の市長と成り、この総合生活移動産業のコンセプトを加賀の地で実践されようと



している事に、期待と希望を感じていた。

2012年12月にはオリジンから3冊目の著作として「観光学博士の市長実践記」を出版され、2期目の市長選に供えられていた。しかし新しい挑戦や試みは、しばしば抵抗や軋轢を生み、挫折を伴いやすいものだ。昨年10月に行われた市長選で寺前先生は敗北を余儀なくされ、地元での総合生活移動産業の試みも中断せざるを得なくなつた。残念なことである。

オリジンにとっては僥倖！

しかし、この事はオリジン

ン（あるいは筆者？）にとつては、僥倖をもちたしてくれた。寺前先生のライフワークとして総合生活移動産業（現在は人流・観光産業と表現した方が良いかも）の研究と、その実現のひとつの手段として、オリジンの顧問になり、その理論的支柱としての役割を果たして頂ける事になった。それが「人流・観光研究所」のオリジン内での設立であり、

我々の人流産業

な育ちではあるが、こうした寺前先生の挑戦を応援し、関わる事によって、オリジン自身の中に新しい何かが生まれてくるかもしれない。是非それに期待したい。

またそのお披露目としての今回の第7回チームネクストでの講演であった。寺前先生は国土交通省時代、観光学博士としての高崎経済大学教授時代、市長時代、そして現在の帝京平成大学のすべての講義録、著作を「人流・観光研究所」のホームページで公開し、広くその意見を世に問い、また世の意見を聞こうとしている。従来の大学の学者とは違った「知のあり方」を模索しようとしてきているのかもしれない。オリジン自身は（というより筆者自身は）と言った方が良いかも（ないが）、いわゆる学術的な世界とは無縁な、雑草の様

オリジンは2012年の4月全体会議にて会社として「ITで総合生活移動産業創造のお役に立つ」とのビジョンを掲げた。ますます時代は進化し、あのグループが巨大な情報インフラと突出した技術と巨額な資金力を駆使して、世界の人流産業を包括しようとしている。が、我々は悲観する事は無い。あのグループでさえ人流という分野に興味を抱くのだから、この分野で、彼らにはできないアナログの世界で強みを鍛えつつ、我々の新しい人流産業をこつこつと構築すれば良いと思う。パラダイムの転換推進は彼らが得意だが、その磨き上げは我々日本人に分がある筈。時代の転換を大いに楽しみたい！（2014年7月29日記）

タクシー買取専門店だから出来る高価買取
LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫！



株式会社ジェット
☎ 03-6454-9896

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 プローブ浮間舟渡 101 FAX: 03-6454-9994 東京都公安委員会 第305561207814号